ZOOM UP

あやの見た空

千歳市民ミュージカル／演出 森一生氏、脚本 任泰峰氏

主人公・田畑 文（あや）と飛行場との宿命的な関わりを軸に大正・昭和を駆け抜けた千歳村、親子三代に渡る物語。

近代史における千歳は、空港の発展とともにありました。小樽新聞社のパイロット酒井憲次郎氏が千歳に降り立ったのが大正15年10月22日、その着陸場を造り出したのは、村民総出の労力奉仕（ボランティア）でした。

《市民ミュージカル「あやの見た空」》は、空港誕生を背景に、一人の女性の人生を描いた市民劇です。

6月22日からのオーディションに始まり、仕事などの合間を見て稽古に励んできた市民の皆さんの成果が、いよいよ来月披露されます。

ここでは、練習風景の写真と一緒に、その一幕を少しだけ紹介します。

2020

1/18公演 土曜日

北ガス文化ホール

2部制：13：00～/18：00～

大人1,000円/子ども500円

チケット取扱所：NPO法人千歳メセナ協会／北ガス文化ホール／ミナクール／エルム楽器千歳支店

主催：千歳市民ミュージカル実行委員会

詳細：☎・Fax (27)1756

※千歳市ひと・まちづくり助成事業です。

“あや”さんに聞く！

「田畑 文がそこにいた」と感じてもらえるように

《主人公・田畑 文》役

宮崎 里沙（みやざき りさ）さん【北栄在住】

演劇の経験は6年。仕事も忙しく、私が主役を担うことになるとは思いもしませんでした。千歳で生まれ育ちましたが、恥ずかしいことに、当時の村民の手と汗によって空港（着陸場）がつくられたことを知りませんでした。役を通じ自分が千歳市民であることを感慨深く思います。登場人物には、酒井飛行士など実在した方が数多く登場しますが、文はあくまでも架空の人物です。とても芯のある女性で、どんなことにもまっすぐ、涙を流すときは誰もいないところで…。そんな文に笑顔でいてほしい、楽しい気持ちでいてほしいと願う周囲の人がいて、文は《踏ん張って》生きてきました。そんな文に共感をおぼえる私は、実際に「田畑 文がそこにいた」と感じてもらえるよう、役づくりを心がけています。激動の時代をどんなことがあってもめげずに生き抜いた一人の女性と空港がどのように誕生したのか、同時に楽しむことができる作品です。ほかの出演者も観た人の心に何かを残せたら…と、日々の稽古に全員で取り組んでいます。ぜひ、会場にお越しください！

出演者の熱心な歌と踊りは、ミュージカル初心者が多いとは思えない圧巻の迫力があります。

▲自らの出番以外の練習にも参加し、仲間同士で励まし合う参加者の皆さん。

▲飛行機を知らない住民が着陸場面を想像するシーン。

▲事務局スタッフは次回練習日などの参加者数を一か所に集まった手の数で把握する。なんともいえない一体感がそこにある。

▲クワを片手に村民総出で行った着陸場造成のパート。今の若者が当時の住民の苦労を演じることに意義があると演出の森さんは話します。

▲出自の異なる市民、世代が異なる市民同士が練習を通じて一つになっていく。

主催者から

実行委員会 委員長 釣 晴彦（つり はるひこ）さん【緑町在住】

時代の特徴として、人と人との間に閉塞感を感じていましたが、日々、皆さんの熱心な練習風景を見ていると、異なる人同士がミュージカルの中に同じ居場所を見いだしていることに感銘を受けます。人と人の本当のつながりを、そして、わくわくする感覚を市民の皆さんと共有したいと思います。

アノ人に聞く！

2004年北海道文化奨励賞、2012年札幌芸術賞受賞者

演出 森 一生（もり かずなり）さん【札幌在住】

これまでも様似町や斜里町で町民劇を演出してきましたが、北の空の玄関・千歳空港と千歳の歴史をテーマにすることは、私にとっても挑戦でした。演出家として、観客の皆さんには、当時の千歳村民の《寛容さ》と《知的な忍耐力》を観てほしいと思います。舞台の壇上で表現する側と、それを観客席で受けとめる側が《共感》していくことで「本当に大事なもの」が見えてくる。それが、まちを好きになっていくこと、そして地域が生き生きしていくことにつながると信じています。